



— も く じ —

◎あいさつ	1	◎特色ある学校	6
◎県の動き 総会・講演会	2	◎地区だより	7
◎全国・関プロの動き	3	◎ひろば・編集後記	8
◎全国研究大会（大分大会）	4・5		

私たちにとっての教頭会

会長あいさつ

宇都宮市立明保小学校 柿沼隆久



「子の曰（のたま）わく、学んで思わざれば則ち罔（くら）し。思うて学ばざれば則ち殆（あや）うし。」

『論語』（金谷治訳注、岩波文庫）の一節です。私事で恐縮なのですが、自分が教員としての経験を重ねるにつれて、妙に心に残るようになってきた言葉です。

教師になりたての頃、毎日が勉強でした。子どもたちから、同僚や先輩から、毎日様々なことを夢中で「学び」ました。教育に関する図書や関係資料を必死で探しました。多くの人々や実践から学ばせていただきました。教頭先生である皆さんもそうであったと思います。

また、それとともに、教育について様々なことを「思う」（考える）ようにもなりました。とりわけ近年は、学校教育に対して、かつてとは比較にならないほど様々な課題が示され、社会の厳しい目が向けられています。必然的に、いろいろと「思う」ことが多くなりがちです。そんなとき、ふと考えます。「今、自分は、きちんと学んでいるか。」と。

「学校で一番忙しいのは教頭先生だ。」と、よく言われます。実際、平日の朝早くから夜遅くまではもちろん、時には休日にも仕事をこなしている身で、学ぶ時間の確保は難しい問題かもしれません。また、教頭はその多くが「一人職」であり、学び合える仲間がすぐ近くにいるわけでもありません。それでも、教頭としてやるべき仕事は確実に毎日やってきます。そうした中で、「思う」と「学ぶ」を両立させることは、結構難しいことなのでしょう。

深く「学ぶ」ためには、子どもの学習と同様、「課題を同じくする者同士の学び合い」が大切でしょう。そんな教頭先生同士の学び合いに寄与するものとして、教頭会があります。

本会をご存知のように職能研修団体です。これは、「職員の職務能力を相互の研鑽によって高めることで、その社会的地位の向上を図ることを目的として活動する団体」です。言わずもがなではありますが、各地区の教頭会も同様、従来から実施している研修会や研究大会などは、共に学び合うための大切な場です。そして何より、そうした機会を通して人と人とのつながりを深め、学び合える、支え合えるネットワークを、一人一人が構築できることが大切なのでと考えます。教頭は学校運営を担う管理職者の一人です。ただし、我々は、子どもたちの教育に携わる教育実践家でもあります。我々自らがプロとして夢をもち（夢をもつには力が必要でしょう）、学び合うことを通して、課題の解決を図ればと思います。

本会は昨年度の50周年の節目を経て、新たな一步を踏み出すべき時を迎えました。今後も会員相互の情報交換や研修をよりいっそう充実させ、様々な教育課題解決のための諸活動を推進してまいりたいと思います。何とぞ皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

—— 県教頭会の動き ——

定期総会

第51回栃木県公立小中学校教頭会定期総会に参加して

(舞台係) 益子町立益子小学校 手塚朗彦

「栃木県公立小中学校教頭会定期総会並びに研修会」が、5月27日(月)に宇都宮市文化会館小ホールで開催されました。

定期総会では、国歌斉唱、平成25年度役員報告、柿沼会長のあいさつ、来賓の方々を代表して、県教委教育長古澤利通様、市町教委教育長代表中野晴永様のあいさつに続き、議長団が選出され、平成24年度事業報告、会計決算報告・会計監査報告がなされました。続いて平成25年度の活動方針・事業計画案・予算案の提案があり、慎重審議の結果、いずれも満場一致で承認されました。また規程改正報告の後、県教頭会本部役員として活躍された方々を代表して、前副会長の小林武様に感謝状並びに記念品が贈呈されました。



当日私は、総会と研修会の舞台係として関わりました。開会から議事進行まで円滑に進められるように、私を含め5名の先生方と協力して進めました。

県の教頭会として、559名の会員が一堂に会するのは、この5月の総会と例年11月に開催される研究大会の2つですが、特に総会は年度のスタートであり、1年間の活動方針、それに基づく事業計画や予算等の提案がなされることもあり、進行が途切れないように心がけました。総会は無事終了しましたが、運営に関わった多くの先生方の協力の成果であり、また県教頭会全体の組織力を強く感じることができました。

講演会

「生きる力をはぐくむ学校防災」～防災管理における教頭の役割～

上越教育大学大学院学校教育研究科教授 藤岡達也氏

ー 防災教育の重要性 ー

さくら市立氏家中学校 植木茂

東日本大震災当日、生徒を避難させた後は教職員も校舎には入れず、次の日の早朝一人学校に来て愕然とした。これは、教頭として記録に残しておかなければならないという使命感のようなものを感じ、余震に揺れるなか恐怖を感じつつも校舎の中や体育館の惨状をカメラで撮りまくった。

今、藤岡先生の80枚ほどのパワーポイントの映像を見ながら、当時の自分の姿を思い出しつつ、改めて見る東北地方の被災写真には目を釘付けにされた。幸い当時の勤務校は、物品が飛び散ったり壊れたりはしたが、けが人はなく不便さはあったものの学校生活が送れたが、あのときあの東北地方のどこかの学校に管理職として勤務していたらどのように行動できただろうか、と講演を聞きながら思った。まして、校長が不在であったあの小学校の教頭であったらと思うと、言葉がでない。「想定外」という言葉はもはや使えないなかで、われわれ管理職者はどのように学校防災や防災教育に力を入れていけばよいかを考えさせられた。



藤岡先生は、「自然災害を考えるとともに、地域の自然の恵みも考えなければならない。地域の自然は普段はこれだけ素晴らしく我々に恩恵を与えてくれる。しかし、災害というのは一歩間違うとこういうところもあるという両面性を、改めて地域で理解していく必要がある。自然だけでなく、社会的な地域の環境も踏まえた上で、これから管理職の先生は学校運営を考えなければなりません。」と環境教育の専門家の立場で語られたことが印象に残った。また、「子どもたち自身が自分の頭でどう考えて判断できるのか、というような防災教育が重要になってくる。」ということも我々は意識しておかなければならないと感じた。

— 全国・関ブロの動き —

全国総会

全国公立学校教頭会総会に参加して

宇都宮市立宮の原中学校 岡 健 二

6月7日に、全国教頭会第55回総会に参加させていただきました。午前中は総会が行われ、午後は内閣府政策統括官付参事官加藤弘樹先生を講師にお迎えして、「青少年育成の現状と今後の課題」という題目で、講演会が行われました。

最初に、サッカーの話から、講演に入られました。ワールドカップフランス大会の頃と比べて、日本のサッカーは格段に強くなった。海外で鍛えられたものに技術ばかりでなく、「コミュニケーション能力、伝える力」があるのではないかと。また、日本人としての自覚が高まり、自分が日本人だと否が応でも感じたのではということでした。

次に「学校は愛情の場」であり、表面とりすました、熱のこもらない教育では、教育がこわれてしまう。教育は突き詰めていけば「人」であり、人材創造活動であるとの認識をもってほしい。現在、起業家（企業化）精神が日本の教育に求められている。リスクのあるところに子どもを立たせることも、時には必要ではないか。

3番目は、「共生社会」についてで、自己が確立し、自分を立てて生きていく人に育てることが教育の使命ではある。ニート・ひきこもりの若者には、自己肯定感・有用感を何かのきっかけでもたせ自信を付けさせる。単線型の日本教育の特徴である「比較」は良くない、ととても重いストレスになる。みんな違っていても良い。それぞれ違っているが、同じものもある。

4番目は「命」についてで、年齢が離れている乳幼児（ピュアな命）・高齢者に触れることは、及ぼす影響が大きい。青少年期のどこかで、しっかり命に触れる機会をもつ。体験学習として、赤ちゃんを抱いてみる（保育）。認知症のお年寄りのお世話を（介護）。これは、1～2回ではだめで、できるだけ長期間、継続的に行うことが教育効果が高い。学校だけに限らずに、命に触れて、命が分かり、自他の命を生かしていく。人のためになることをしていくなどでした。

印象に残った内容を中心にまとめましたが、分かりやすくお話しされ、大変参考になりました。

関ブロ提言者研修会

関ブロ教頭会提言者研修会・研究部長会報告

栃木県公立小中学校教頭会研究部長 宇都宮市立富士見小学校 森 田 浩 子

梅雨の晴れ間がのぞく6月10日(月)・11日(火)、ローズホテル横浜で開催された関ブロ教頭会提言者研修会・研究部長会に参加した。

第1日目、開会行事後の全体会では神奈川大会の研究について、神奈川大会研究部長・清水弘子教頭からの報告があった。研究主題を「豊かな人間性と創造性をはぐくむ学校をめざして」、副題に「～未来を見据え、子どもたちの「生きる力」をはぐくむ魅力ある学校づくり～」として「授業力の充実」と「魅力ある学校づくりの推進」を柱に、全国公立学校教頭会の基本方針を踏まえた「継続性」「協働性」「関与性」を焦点化した研究を進めているとの報告があった。その後、分科会となり、各課題に分かれて提言者の論文と協議の柱の検討を行った。本県からは第2分科会Bに那須塩原市立三島中の柴田教頭、第6分科会Aに日光市立今市小の宇賀神教頭が参加し、論文の説明や検討を他都県の発表者や研究部長と共に、大会当日の指導助言者から発表についてのご指導をいただいた。



その後教育懇談会となり、各都県との情報交換を行いながら、参加者との懇親を深めることができた。

第2日目、全体会では各分科会での話し合いの概要の発表と意見交換、各都県の研究の取り組み状況の報告があり、閉会となった。

研修に参加し、神奈川大会の各発表内容は副校長・教頭の職能の向上と職務内容の追究をめざした充実した実践研究であることが理解できた。第9期のまとめとして神奈川大会での課題の解決に向けた取り組みの有効性・妥当性の検証に期するものは大きい。

—— 全国研究大会（大分大会） ——

開会式・シンポジウム

宇都宮市立陽東中学校 中山 俊 美



7月29日、大分県別府市別府国際コンベンションセンターに於いて、勇壮な由布高等学校郷土芸能部の庄内神楽「貴見城」の舞と、美しく美しい津久見檜の実少年少女合唱団の合唱で、平成25年度全国公立学校教頭会研究大会大分大会が開幕しました。

主題を「夢や希望を追いつづけ、21世紀を主体的に生きる子どもの育成」としたシンポジウムは、コーディネーターに浜田博文氏（筑波大学人間系教授）、シンポジストには佐藤学氏（学習院大学文学部教授）、勝野正章氏（東京大学大学院教育学研究科准教授）、金山康博氏（共栄大学教育学部准教授、元志木市立志木小学校校長）の3名でした。

金山先生からは、「ひとりぼっちにしない教育の推進」の提案がありました。「ひとりぼっち」とは生徒はもちろんのこと、教職員もひとりぼっちにしない、校長先生もひとりぼっちにしないということでした。また「学校運営の推進力は小さなアイデアの積み重ねが大事」ということでした。それぞれに教頭・副校長の関わりは大変重要と感じました。

勝野先生からは、教師同士が学び合うことは重要で大切なことではあるが、そこには苦しみとか痛みが伴う。学び合いの共同体を育てるのは、植物を育てるのと同じようになかなか容易なことではない、というお話を伺いました。

佐藤先生からは、現在の学校は一人で玉を3つも4つも回すジャグリングのようなもの。ビジョンを持たないと全ての玉を回そうとして潰れてしまう。学校のビジョンとは、「一人残らず生徒の学びを保障し、その質を高めること」、「一人残らず教師が教室を公開し、同僚性を高め成長し合うこと」に尽きると話されました。

記念講演

記念講演を聞いて

真岡市立山前小学校 小島 一 穂

7月31日、大分県別府国際コンベンションセンターで、株式会社プラネットファイブ代表取締役田中和彦氏から「学校運営力を高める処方箋」という演題の記念講演を聞きました。第55回全国公立学校教頭会研究大会大分大会を締めくくりにふさわしい、すばらしい講演でした。

ビジネス界で生きてきた同氏が、リクルートや雑誌の編集長を歴任して見出した、時間管理術、経営術、人心掌握術などを学校になぞらえて話してくださいました。①膨大すぎる事務仕事…緊急度、重要度のマトリクスで整理・整頓して考えよ、②保護者との対応…公正公平、迅速な対応を心がけたほうがよい、③校長との関係…校長の予定を先回りして考えておくとういと思う、④多種多様な勤務…定例会議も必要性を疑い、やらない勇気も必要である、⑤教職員への指導内容…モチベーションを高めることは、未来を語ることである、等です。異なる性格の人たちが団結すれば、積の形で大きくなる、力が発揮される、みなさん頑張ってください、とまとめていらっしゃいました。

海と山の幸に恵まれた「豊の国」大分県。福沢諭吉、滝廉太郎などを育てたこの地は、歴史と伝統を大事にする県でした。人を育てることを大事にする、教育の先進県でもありました。

「夢や希望を追いつづけ、21世紀を主体的に生きる子どもの育成」をするという気持ちを強くもちました。2,700人の参加者も同じ思いだったと思います。今ここに私たちは、新しい一歩を踏み出します。



第5 A分科会「教職員の専門性に関する課題」に参加して

那珂川町立薬利小学校 川上 ひより

大分県で開催された全国公立学校教頭会研究大会の2日目は、6会場に分かれて分科会が行われました。私は、第5 A分科会「教職員の専門性に関する課題」に参加しました。

午前の部では、和歌山県田辺市立龍神中学校の新行靖先生が、「教職員の道徳教育推進の意識を高める取り組みの工夫と教頭の役割」というテーマで、体験活動との関連を図った取組や総合単元的道徳について発表されました。道徳教育については、地域によって温度差があると聞いていましたが、グループ協議の中で九州や関西の先生方から人権授業や平和教育などが道徳の中で実施されていることを伺い、栃木県との違いを実感しました。



午後の部では、鹿児島県鹿児島市立桜洲小学校の平山甲一先生が「教職員の資質・能力の向上を図るために教頭としての役割はどうあればよいか」というテーマで、職員週報や資質・能力向上スケジュール、授業診断シートなどを活用した教職員の資質向上への取組を発表しました。教頭自身の意識の変革も含めた取組は、大変参考になりました。

全国大会 第3分科会に参加して

高根沢町立阿久津小学校 柴田 安之

第3分科会では、「教育環境整備に関する課題」に関して千葉県長生教頭会より「防災意識を高める教育環境づくり」についての提言がありました。子どもたちの命を守る教育環境づくりについて、大震災発生時の課題を把握し、危機管理マニュアルを見直しそれに基づいて避難訓練、家庭への引き渡し、情報伝達手段、備蓄品の確保、教頭が中心になって作った危機管理マニュアルを教職員全員で作成し、情報の共有化、さらに時間の経過とともに忘れられるマニュアルを定期的に確認する等についての説明がありました。2つ目は、佐賀県唐津地区教頭会より「児童・生徒の9年間の育ちを見通した小中連携のあり方」についての提言がありました。小中連携において「職員の意識を向上させる取組」と「指導目標と内容の共有化」を図るため、定期的に小中合同研修会を設定したり職員の役割分担をしたり助言や支援を行ったりしながら職員の意識を高めていく努力をしているとの説明がありました。3つ目は、大分県玖珠郡教頭会より『「統合して良かった」と思える新設校に向けての取り組み』についての提言がありました。4 中学校の教頭が取組の核となって緊密な連携を取り合い、生徒指導を中心課題に各校の実践を検討しながら課題解決を図り、よりスムーズに移行することができたという取組についての説明がありました。3つの提言を受け、参加者260名が36班に分かれ、それぞれの県での取組や課題など活発な意見交換を行い、今後の学校教育活動の参考となりました。

第1 A分科会「教育課程に関する課題」に参加して

佐野市立城東中学校 大島 秀雄

本分科会は別府市の亀の井ホテルで開催されました。午前中は「土曜日における授業の実施について～としま土曜公開授業を生かした教育課程の効果的な運用～」と題して東京都豊島区立千登世橋中学校の提言がありました。豊島区では区内8中学校が学校行事の実施も含めて、年10回を教育課程に位置づけ実施したとのこと。それまで、平日の授業をカットして実施していた「保護者会」「特別活動の取組」等を計画的に組み込み、授業カットや短縮授業が大幅に減少し、授業の公開等を行うことにより多くの保護者が学校を訪れる機会になったとのこと。グループ討議では、今後は学力向上に向けての研究が望まれるのではないかと意見が出されました。さらに、教師の多忙感の問題、部活動や地域の行事と重なってしまった時の扱いを考えていかなければならないと思いました。

午後は、『「地域の教育資源」を生かした教育活動をより効果的にしていくための教頭の役割について』と題して長崎県西彼杵郡の教頭会から提言がありました。また、それぞれの提言の後に行われた全国から来られた教頭先生方とのグループ討議で、地域に応じた実践の数々やご意見をお聞きでき、有意義な時間を過ごすことができました。

シンポジウム、講演とも魅力あふれる講師陣で、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。今後の学校教育活動に生かしていきたいと思っております。

(6)

特色ある学校

生徒の主体的な活動から「いじめ未然防止推進」へ

日光市立今市中学校 小平 勇一

本校は、平成18年の「平成の大合併」後、日本で3番目に広い日光市で、最大の生徒数670名の中学校です。文化部、運動部共に大変部活動が盛んな学校です。文化部では、昨年度吹奏楽部が日本学校合奏コンクール金賞を受賞。運動部では、栃木県中体連の春季・総体・新入大会の各大会における学校対抗戦で、13期連続の優勝をするなど輝かしい成績を残しています。



本校は平成25・26年度、県教育委員会の指定を受け「いじめ未然防止推進」事業に取り組んでいます。「いじめ」の未然防止のために、学級や学年を超えた異年齢間の交流や、学校間の交流を活性化したり、地域や自然とかかわる機会を増やしたりすることなどで、互いに認め合い、相手を思いやる人間関係づくりを推進していこうと思います。そのことで、生徒の社会性を高め、進んで仲間とつながり合い、豊かな心を育むことに結び付けていこうと考えています。

本研究は、本校の最大の魅力である「部活動」に着目しました。「生徒が部活動から学ぶものは何か。」部活動は、学級や学年の枠を超えて、同じ活動に興味・関心がある同好の生徒が自主的な判断によって参加する活動です。生徒がスポーツ・文化・科学・芸術等に触れながら、より高い水準の技術や記録を目指し、互いに教えあったり励まし合ったりして楽しさや喜びを味わう場でもあります。そして何よりも、生徒の自主性や社会性を育てたり、互いを思いやる心や豊かな人間性を養うことができる場でもあります。道徳教育や特別活動を充実させることは、当然のことですが、保護者や地域の協力も得ながら、本校の特色である「部活動で人づくり」に邁進していきたいと思っています。

伝統を守って40年。新たな思いでスタート

足利市立南小学校 久保田 弘子

本校は、町の商業地区の中心にあり、児童数が市内の小学校で3番目になります。学校の周囲は住宅街ですが、校庭にはたくさんの木々が茂り、緑豊かな学校です。

平成24年に開校40周年を迎えました。初代校長の北林良夫先生から続く「響く心・湧く力」の教育理念の下、開校以来伝統的な活動が40年間、今も、子どもたちに引き継がれてきました。

一つは、朝の清掃活動です。朝は6年生の清掃から始まります。少し早く登校し、職員玄関から、階段、2階の職員室前廊下を掃除します。交代で毎日続きます。卒業する6年生が、3月になると5年生に掃除の仕方を引き継ぎます。こうして、4月には、新6年生が始業式の日から朝掃除が始められます。

二つ目は、落ち葉はきです。秋になると、落葉樹の葉が落ち、5年生による朝の落ち葉はきが始まります。寒い朝、当番の子どもたちが箒やちりとりを持って、学校内外の落ち葉を掃きます。誰一人文句を言う子どもはいません。毎朝、交代で一か月ほど続きます。

三つ目は、あいさつ運動です。1年生から6年生までが、縦割り班で交代で登校時に元気よく行います。卒業生の保護者からは、「まだ、朝掃除や落ち葉はき、あいさつ運動が続いているんですね。」と声を掛けられます。

今年は41年目になります。681名の子どもたちの元気な声が今日も響き渡ります。



日々の職務に邁進

宇都宮市・上三川町小学校副校長会長 北 條 久 男

本会は77名の会員で組織しています。会員の研修は、先輩諸氏が引き継いでくれた実のあるものになっています。全体研修会は年に3回実施しております。1回目と2回目のテーマは現在の課題を設定し講演会を実施しております。今年の2回目の全体研修会は「体罰防止」について研修を深めました。

本年の3回目の研修は、各班の研究を発表します。地域学校園を基本に、全会員を10個の班に分けて、1年間を通して研究を深めます。テーマは栃木県公立小中学校教頭会から示されたものによって決めています。各班で創意工夫をこらし実のある研究になっており、本内容を栃木県公立小中学校教頭会の研修会で発表したり、本会の全体研修会の場で発表しています。

また、本会の会員は、常日頃校長の補佐役として職務に邁進しておりますが、このようにできるのも、校長先生方のご理解や、教職員の皆さんのお陰だと思っています。学校現場ではいろいろな課題が山積しておりますが、児童の輝く目を励みにして努力したいと思っています。

生きる、かかわる

芳賀郡小中学校教頭会長 小 島 一 穂

芳賀地区小中学校教頭会は、真岡市・益子町・茂木町・市貝町・芳賀町の教頭50名（小学校33名、中学校17名）で組織されています。会員相互の研修と親睦を図り、教頭の資質の向上と学校教育の振興を図ることを会の目的としています。

全体研修を年2回実施しています。1回目は、芳賀地区小中学校教頭会総会の日です。今年は、5月に芳賀地区小中学校長会長・市貝町立市貝小学校長 栗田千鶴先生から「よきパートナーとして」と題しての講話を聞きました。人との出会いで人生が変わる、管理職の心得などの話です。2回目は、8月に「生きる」というテーマで二つの講演を実施しました。講話①「川は生きている」国土交通省関東地方整備局下館河川事務所真岡出張所長 宇梶実様、講話②「パン作りに生きる」洋菓子しばの代表 芝野眞也様です。前半は、芳賀郡を流れる4つの川、鬼怒川・五行川・小貝川・那珂川の恵みと恐怖について、後半は、TVチャンピオン「パン選手権」のSLパン、パン作りで大切にしていることの話をお聞きしました。

11月の県の研究大会では、「教育課程（小）」で発表します。研究課題は「豊かな人間性と創造性をはぐくむ教育課程の工夫・改善～日々の教育活動における教頭のかかわり～」で、教育課程の工夫・改善に際して、成果と課題を整理し、日々の教育活動における教頭のかかわりについて発表します。研究委員13名が中心となり研究を進め、50名の日頃の取り組みをまとめたいと思います。





今を思い、初任のころを思う

宇都宮市立陽東中学校 塩谷 勇直

本校は生徒数800名を超える大規模校で、教頭、養護教諭、事務職員といったいわゆる一人職の複数配置校（各2名）です。そんな中、新任教頭の私は、先輩の教頭先生から事前に様々な指示や助言をいただくことができ、多忙な毎日ではありますが混乱することなく日々の職務をどうにかこなしているところです。

本校の教頭の職務は、おおまかに「管理」と「指導」に二分して分担していますが、実際にはお互いに相談、確認し合って様々な仕事をこなしています。とは言っても新任の私にとっては先輩の教頭先生からアドバイスをいただけるので、複数教頭制の恩恵を受けているのは私だけかもしれません。

こんな毎日を過ごしていて、ふと初任のころで思い出したことがあります。初任から学級担任をし、先輩の先生と生徒会を2人で担当し、毎日遅くまで仕事に四苦八苦していましたが、この先輩の先生から様々な助言をいただき、時には2人で試行錯誤し、そしてほぼ毎日焼き肉屋で雑談した経験は何より貴重でした。

若手の先生方に、先輩の先生方から助言を受け、先輩の仕事ぶりを見て自ら学び、共に試行錯誤や切磋琢磨できる環境が整えられたらよいなと考えています。

体験からの感動、そして学びへ

野木町立新橋小学校 斎藤 みどり

先日、新国立劇場でオペラを鑑賞する機会があった。本校の創立三十周年記念音楽鑑賞会でお招きするオペラ歌手「星 洋二」先生が出演する、レスピーギ作曲「ラフィアンマ」が上演された。オペラを見るのは十年ぶり、しかも新国立劇場である。わくわくした気持ちで席に着いた。前方の席で、歌手の方々の表情もはっきりとわかり、その演出や音楽やすばらしい歌声を堪能した。あっという間に3時間が過ぎ、楽屋まで星先生に挨拶に行き一緒に写真を撮り、また感激ひとしお。その余韻を残したまま一緒に行った方々と夕食をとった。ライトアップされた東京タワー、折しも夕立となり庭の木々が雨に濡れ風情のある趣である。教育談義あり、会社の話あり、世間話あり楽しいひとときを過ごした。この貴重な体験は、感動と同時に様々な物事に対しての興味・関心を引き起こした。

1学期に3年生で理科の研究授業があった。植物の体のつくりの単元で、3つの植物を比較観察し、個人の意見をもとにグループでの学び合いを行った。「ああ」「ふうん」（なるほどの意）のつぶやき。感動いっぱい授業であった。体験からの感動は次への学びにつながる。子供も大人も同じである。何を得るかは一人ひとり異なる。しかし、その機会をできるだけ設けたいものである。

う と そう そう 烏 兎 匆 々

大田原市立親園中学校 荒井 清之

午前四時に起床し、たんぼ道を小一時間ウォーキングする。家に戻ってテープを流し、ラジオ体操をする。シャワーを浴びて朝飯を食べ、六時過ぎには職員室にいる。そんな毎日だ。

本校の職員室は二階に設けられている。ベランダに出て、「青田涼しく風渡るなり」と詠じつつ今日の業務を確認する。そんな日々が繰り返され、改めて思う。「もうすぐ夏休みじゃないか。時の流れの速いことよ！」

教員生活を始めて三十年が過ぎた。振り返れば、瞬く間の三十年である。特にここ数年の経過速度は、いっそう速く感じられる。忙しさに紛れ忙しく暮らし、気がついたらここまで来ていた、といったところか。多忙を悦楽に置き換えれば、まるで浦島太郎だな。…鏡の中の自分は、「あゝ」白髪頭だ。

「のんびりしたいなあ」と考えることしばしば。「子どもの頃は良かったなあ」と思い返すこともたびたび。小春日和、縁側に座って婆ちゃんの昔話を聞かされた頃…。

少々感傷的な物言いになってしまったが、私はこの仕事に遣り甲斐を感じている。強く感じている。教育＝人づくり→社会づくり。時系列で社会を重ねていけば、教育＝歴史づくりである。何と素晴らしい仕事ではないか！

こうして私は、「烏兎匆々」の一言を噛み締めながら、「教育、意気に感ず」と念じつつ、今日もせせせと教育活動に勤しむのであった。

編集後記

夏休みが終わったと思ったら、もう10月になろうとしています。会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、今回の会報では、全公教総会や関ブロ提言者研修会、この夏の全国大会の内容などを掲載いたしました。

夏の暑さだけではない様々な厳しさの中で、活動に研修にと尽力され、その成果を玉稿としてお寄せくださった皆様に、深く感謝申し上げます。

この会報が、会員の皆様へ全国や各地区の状況をお知らせする一助となり、今後の業務のヒントになれば幸いです。（神野）